

学力向上のための授業改善に向けた3つの視点

27.10.19 下都賀教育事務所学校支援課

全国学力・学習状況調査及びとちぎっ子学習状況調査の結果から確認された課題を踏まえた授業改善に向けた具体的な取組を提案します。

今後発刊される栃木県教育委員会の学力向上関連のリーフレットと併せて活用していただき、日々の授業改善にお役立て下さい。

○ 各教科の調査結果から見られた課題(抜粋)

- ◆資料や情報に基づいて自分の考えを明確に記述したり、筋道を立てて表現したりする等の記述式問題の正答率が低い。

○ 質問紙調査結果から見られた課題(抜粋)

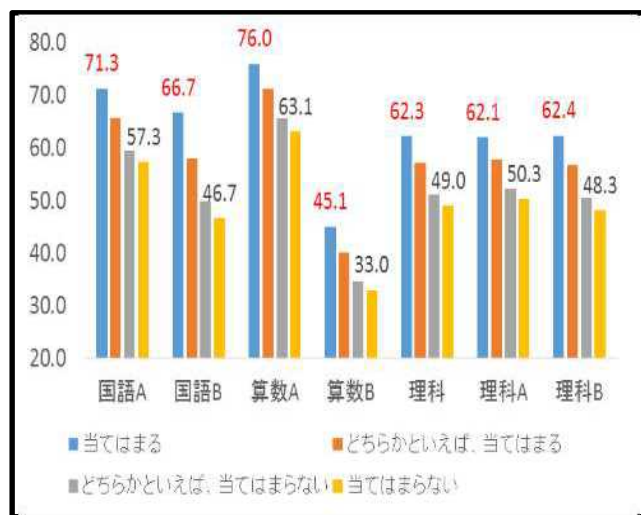
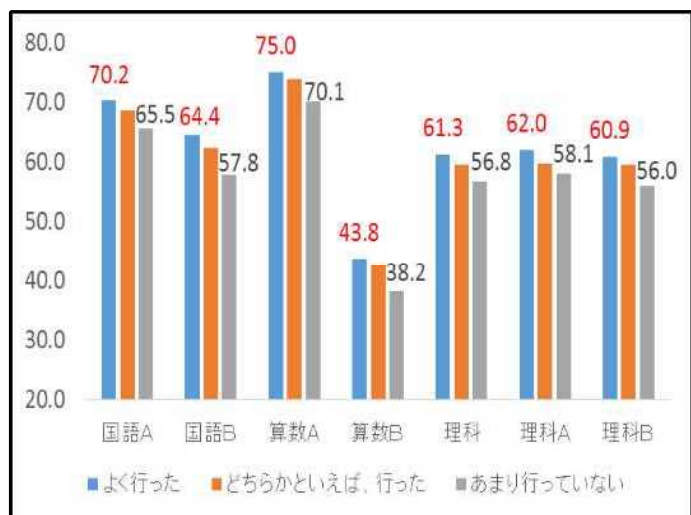
- ◆授業において、先生と児童生徒が「学習の目標・振り返る活動」を共有できていない。

- ◆「前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか」

※全国学力・学習状況調査学校質問紙(小学校)

- ◆「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか」

※全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙(小学校6年)

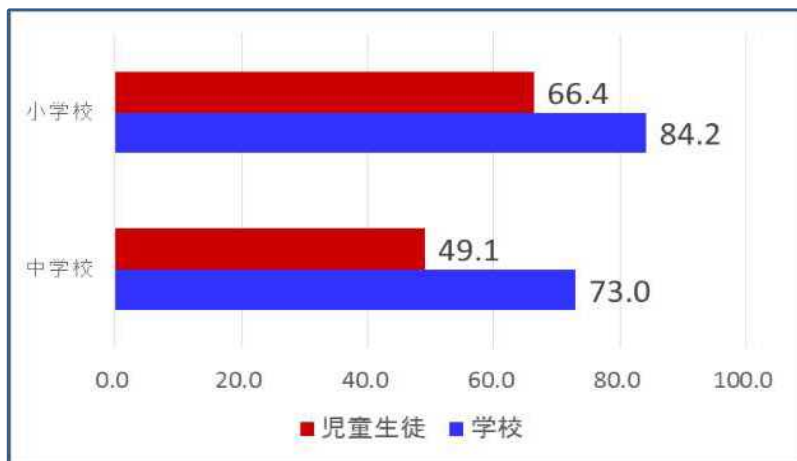


<授業改善に向けた3つの視点>

- 1 授業の目標(めあて・ねらい)を子どもたちに示すこと
- 2 授業を振り返る活動を確実に行うこと
- 3 どの子にも自分の考えを書く習慣を付けさせること

1 授業の目標(めあて・ねらい)を子どもたちにはっきり示しましょう。

- 児童生徒： 授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか
 - 学校： 授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか
- ※ 「はい」と答えた割合(グラフ上段が児童生徒、下段が学校)



グラフから

- 「ねらい」を示していると思っても、子どもたちにとって「ねらい」が示されていることを、あまり意識できていない状況がある。
- 「ねらい」の提示について、学校と子どもたちの捉え方に差がある。

学校訪問等から見られる現状

- 「ねらい」を黒板に単に提示している場面が見られる。
- 「～しよう」といった活動を示すだけの「ねらい」が見られる。

ねらいの設定の工夫例

- 「ねらい」については、子どもたちと共有するための手立てを工夫する。
- 子どもたちが「ねらい」を自分の課題と捉えられることができるように、この授業で「何を学ぶのか」「どのような力が身に付くのか」を意識して具体的に示すようにする。
- 「ねらい」が子どもたちの学習意欲を高めるものとなるように、体験と関連付けたり、学習内容を想起させたりする。

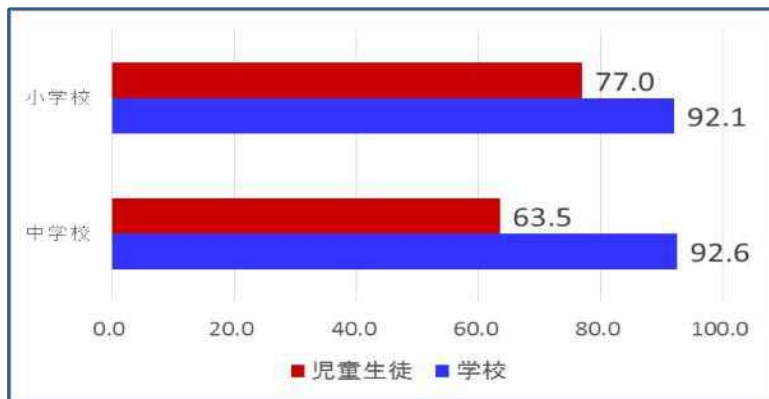
<確認事項>

- 本時の学習指導を通して、先生が子どもたちに身に付けさせたい力を明確にしていますか
- 「ねらい」を設定する際、先生と子どものやりとりを大切にしていますか
- 子どもの実態に応じて、学習意欲を高められるように「ねらい」の提示を工夫していますか
- 「ねらい」から「振り返る活動」までのつながりを意識していますか

2 授業を自分の言葉で振り返る活動を位置付けましょう。

- 児童生徒： 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか
- 学校： 授業の最後に、学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れましたか

※ 肯定的回答の割合



平成27年度全国学力・学習状況調査

グラフから

○「ねらいの提示」と同様に、「振り返る活動」に対しても学校と子どもたちの捉え方に差が見られる。

学校訪問等から見られる現状

- 授業の最後に時間がなくなり「振り返る活動」をおろそかにしてしまったり、行えなかったりする。
- 授業の終末は「振り返る活動」を行っていても、じっくり見る時間がなくて、書かせたままになっている。

振り返る活動の工夫例

- 振り返りカードなどに「分かった」「楽しかった」と○を付けるだけでなく、この授業で何をどこまで理解できたのかを書かせ、この時間の学習内容を整理させる。
- 授業者は子どもたちの振り返りを通して、それぞれの学習状況を把握し、把握できたことを次時の授業等に生かす。

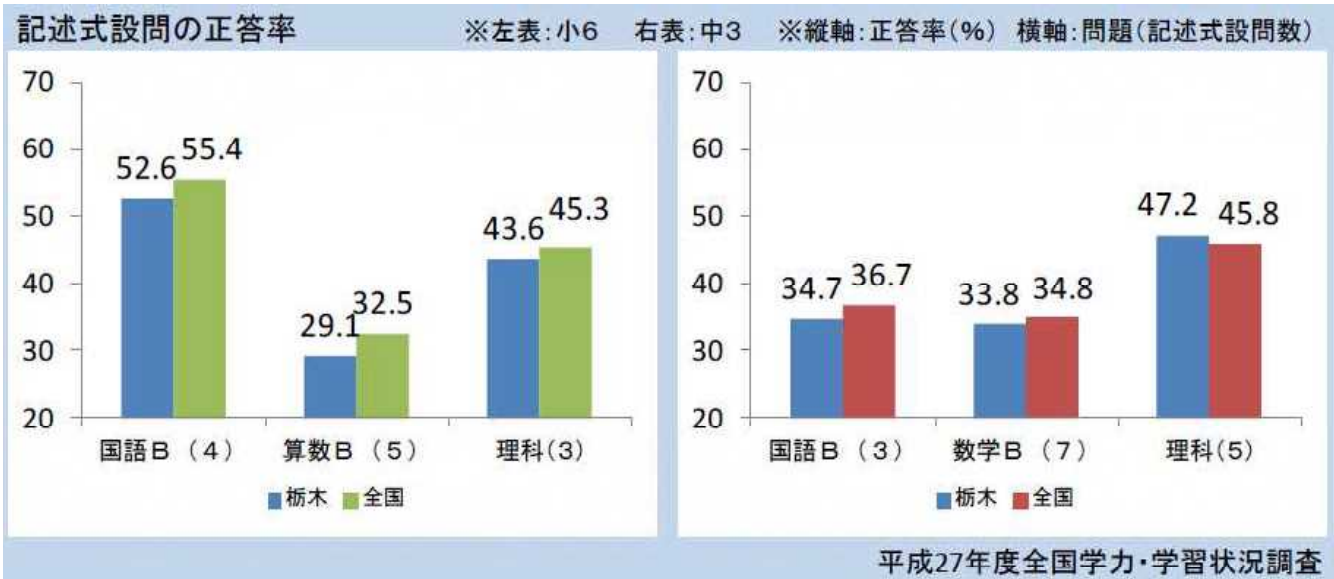
<確認事項>

- 本時の学習活動を通して、子どもたちが「何が分かったのか」、「何ができるようになったのか」等、自分の学びを振り返る時間を確実に設定していますか
- 子どもたちの振り返りから学習状況を把握し、本時の「ねらい」が達成できたかを確認(評価)していますか

《ねらいと振り返る活動の効果》

- 授業の最初に設定した「ねらい」に対する「振り返る活動」を計画的に位置付けることを通して、子どもたちの主体的に学ぶ態度や学習意欲等を育むことができる。
- 授業で「ねらい」を基に「振り返る活動」を確実に位置付けることで「何を学んだのか」を実感することができる。

3 自分の考えを書く習慣を身に付けさせましょう。



グラフから

○見いだした事実を書くことはできていても、解釈したことを正しく書くことができない状況が見られる。

学校訪問等から見られる現状

- 書く活動において、教師の説明や板書の複写に留まってしまう傾向がある。
- 「何を」「どう」書かせるのかという手立てが不十分な場合が見られる。

書く活動の工夫例

- 授業において自分の考えを書く活動を意図的に位置付け、思考力・判断力・表現力を育成する。
- 書く活動と「説明」「話し合い」活動を関連付けることによって、自分の考えをまとめ、整理させる。

<確認事項>

- 教科の特性や学習活動、目的や必要に応じて、図や表にまとめたり箇条書きにしたり、枚数を制限したりするなど「記述」のさせ方を工夫していますか

《書く活動の効果》

- 自分の考えを整理したり、深めたりすることができる。
- 自分の考えや気持ちを整理することで、相手に伝えやすくすることができる。

<最後に>

◇「ねらいを示す・振り返る活動」と「書く活動」の学習場面を適切に組み合わせ、とちぎの子どもたちの確かな学力の向上に向けて、より効果的な学習活動を展開しましょう！